

Sonica DAC の展開(20) —アモルメットの LAN ケーブルへの適用—

1. 始めに

LAN 系統のノイズ対策としてアモルメットの適用とフェライトコア—の適用を行ってききましたが、残っている個所の対策を行います。

2. Sonica DAC の試聴方法

アモルメットの適用については、一連の[アモルメットの導入シリーズ](#)で報告して来ました。その後 [Sonica DAC の活用\(11\)](#)では、ルーターと Sonica DAC の間の LAN リベラメンテを使用することにし、LAN リベラメンテの Sonica の LAN 入力端子付近にアモルメットを通すことにしました。また、[Sonica DAC の活用\(12\)](#)では、CTU と無線ルーターの間に使用されている、LAN ケーブルの LAN リベラメンテの無線ルーターの LAN 入力端子付近にアモルメットを適用しました。

[Sonica DAC の展開\(17\)](#)では、フェライトコア—の適用について検討し、下記のような適用を行いました。

サイズ小のフェライトコア—の適用対象

CTU のスイッチング電源 DC ケーブル

1 階のルーターのスイッチング電源 DC ケーブル

2 階のルーターのスイッチング電源 DC ケーブル

サイズ大のフェライトコア—の適用対象

1 階のルーターのスイッチング電源 AC ケーブル

音楽用スイッチングハブの電源ケーブル

今回、残っている適用対象として次の個所を選定しました。

アモルメット NS295 の適用対象

光モデム→1 階のルーターの LAN ケーブル

2 階のルーター→スイッチングハブの LAN ケーブル

サイズ大のフェライトコア—の適用対象

1 階のルーター電源の AC ケーブル

CTU 電源の AC ケーブル

音源はベルリンフィル DCH の再生とします。

3. Sonica DAC の試聴結果

上記の通り、アモルメット NS295 を 2 個 LAN ケーブルに、フェライトコア—2 個

を電源ケーブルに適用してベルリンフィル DCH の再生を行いました。音楽用 W8.1 機では、期待したほどの効果はなく、若干ベルリンフィルのホールの雰囲気リアルになったかという程度です。このことは、直前に [Sonica DAC の展開\(18\)](#) で報告した W10 機の音が良いすぎたために期待が大きすぎたようです。そこで PC を W10 機に替え、PC の AC アダプターの AC ケーブルにサイズ大のフェライトコアを、DC ケーブルにサイズ小のフェライトコアを通してみましたところ、この処置を加えたことで期待したレベルの音になりました。

4. まとめ

追加のアモルメットとフェライトコアにより、PC を W10 機にすると、これまでの再生レベルのクオリティを超える水準になりました。

以上